

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

TCER は昨年 10 月 1 日をもちまして公益法人へと移行し、正式名称「公益財団法人東京経済研究センター」として新しくスタート致しました。公益法人として最初のニューズレターを皆様に無事にお届けできますことを理事一同大変うれしく思っています。これまでに公益財団法人移行に際して多くの方々から多大なご支援を頂きました。とりわけ、TCER の活動は経済同友会会員の皆様からいただいているご寄付によって支えられています。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

前回のニューズレターNo. 38 でお知らせ致しましたように、旧法人での研究員・客員研究員の皆様には新しく「TCER フェロー」に移行していただくことになっています。昨年末時点でフェロー移行希望のご連絡を頂いた方はすでに約 120 名となっています。フェローへの入会は随時可能です。「TCER フェロー」にふさわしい研究者をご存知であれば、わが国における経済学の先端的な研究センターである TCER の研究活動にフェローとしてぜひ参加されますように勧めていただければありがたく存じます。TCER フェロー規定については、ニューズレターNo. 38 をご覧ください。

新生 TCER におきましても国際学術交流、各種国際および国内カンファレンスの開催や研究会セミナー事業、研究プロジェクト助成などのこれまでの事業を継続して行っていきます。特に、今後はフェローの方々の最新の研究成果をタイムリーに社会に公開できる TCER ワーキングペーパーシリーズを充実させたいと思っています。アメリカの NBER が発行している同種のワーキングペーパーシリーズ、ヨーロッパの CPER が発行している同種のディスカッション・ペーパーに負けないものに成長することを期待しています。ワーキングペーパーシリーズへの投稿は TCER の Web(<http://www.tcer.or.jp/>) から可能です。フェローの皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています。

岡田章 (代表理事・一橋大学)

(2) 2010年度後半の理事会・評議員会報告

公益財団法人に移行後の 2010 年度第 1 回理事会は、2010 年 11 月 12 日 (金曜日) 午前 10 時~12 時、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 9 月 30 日までの旧法人の事業報告及び決算書、平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの新法人の事業計画書及び予算書が承認されました。理事会運営規則・評議員会運営規則・財産運用管理規程・寄附金取扱規程の諸規定が改定されました。業務執行理事、代表理事代理の選出、公益目的事業を目的とする財産と公益目的事業以外を目的とする財産の特定について、期初の遊休財産について、公益目的事業に要する経費に充てる割合、寄附者が用途を特定していない寄附金について、公益目的事業に要

する経費に充てる割合について、定時評議員会の日時等についての議案が承認されました。

公益財団法人に移行後の2010年度第2回理事会は、2011年2月2日（水曜日）午後13時～14時、飯田橋のTCER事務所において開催されました。旅費規定及び評議員選定委員会設置運営規則が制定され、新法人の平成23年度事業計画書及び予算書が承認されました。寄附者が使途を特定していない寄附金について公益目的事業に要する経費に充てる割合、評議員会の日時及び場所並びに目的である事項についての議案が承認されました。また、評議員選定委員会の招集、評議員選定委員の選任、評議員候補者の推薦の件についても議案が承認されました。

公益財団法人に移行後の2010年度第1回評議員会は、2010年11月26日（金曜日）午後14時～15時、如水会館で開催されました。平成22年4月1日から平成22年9月30日までの旧法人の事業報告書及び決算書、平成22年10月1日から平成23年3月31日までの新法人の事業計画書及び予算書が承認されました。評議員会運営規則も改定されました。

公益財団法人に移行後の2010年度第2回評議員会は、2011年2月18日（金曜日）午後17時～18時、日本工業倶楽部において開催されました。新法人の平成23年度事業計画書及び予算書が承認されました。評議員選定委員会の開催予定について報告されました。

（3）2011年度研究助成のお知らせ（フェロー以外も応募可）

公益財団法人TCERより、研究プロジェクト助成のご案内です。本研究助成制度は、経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的として設立されたものです。2008年度までは研究員（現フェロー）のみが応募できるものとしていましたが、現在では経済学研究者であればどなたでも応募することができます。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

2011年度のTCER研究助成応募要領の概要は以下の通りです。

助成金額：一件につき最高40万円

助成対象期間：2011年4月～2012年3月

助成対象者の義務：2012年2月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果をTCERワーキングペーパーシリーズに投稿する。

応募資格：TCERフェローおよび一般の研究者

応募締め切り：2011年5月9日（月）午前9時

応募方法：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局 メールアドレス（tcer@mbs.sphere.ne.jp）

詳細はTCERのウェブサイトに掲載されます。

研究助成についてのお問い合わせは、代表理事代理塩路 (shioji@econ.hit-u.ac.jp) までお願いいたします。

（４）公益法人移行とTCERフェローについて

TCERは昨年10月1日に公益法人へ移行しました。公益法人へ移行したことから、従来の「研究員」「研究員会」については定款では定めていません（この点については、ニュースレターNo. 38をご覧ください）。また、旧TCER研究員・客員研究員の皆様には、昨年メールで連絡しましたように、「TCERフェロー」に移行していただきました（移行手続きは自動的に行われたわけではなく、意思表示していただいた方のみ移行手続きをしました）。移行手続き期間は終了していますが、今後は新規フェローとして登録手続きをしますので、移行希望の場合は、tcer.fellow@gmail.comまでメールをお送り下さい。移行希望を表明していただく必要があります。

TCERフェローを、従来の研究員と比較して記述すれば

- ・入会資格や入会手続きは従来とほぼ同じ
- ・毎年の「研究計画・研究報告」の提出は不要
- ・研究員会のような会議の開催は行わない（したがって委任状の提出もない）
- ・メーリングリストへの登載、メールによる情報提供は従来通り

といった内容になります。

公益法人移行後も、TCERが実施している事業そのもの（TCER研究会や各種コンファレンスの主催・共催など）については変更ありません。研究員の名称がフェローとなっても、TCERの事業へのご協力・ご参加は引き続きよろしくお願い申し上げます。今後ともTCERの事業その他についてのご意見・ご要望は、理事・事務局までお伝え下さい。

なお、公益法人移行後は今まで年度末に行ってきました「研究報告」、「年度研究計画」の提出はありません。昨年にフェロー移行の希望を表明していただいた際に所属先の住所確認をしましたので、今年度末は住所確認も行いません。

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 日米欧研究交流事業 (TRIO コンファレンス) 報告

2010年度TRIOコンファレンス (TCER-NBER-CEPR共催) は、2010年12月16日 (木) と17日 (金) の両日、東大日本経済国際共同研究センター (CIRJE) および金融教育研究センター (CARF) のサポートを受けて、東京大学経済学研究科学術研究棟 (小島ホール) 2階小島コンファレンスルームで開催されました。本年度のテーマは「財政政策と危機」であり、財政赤字が世界経済および日本経済にもたらす諸問題を多角的に議論しました。TCERからは、伊藤隆敏、福田慎一、土居丈朗、岩本康志、渡辺努らが報告者ないし討論者として参加しました (敬称略)。プログラムは以下です。

Thursday, December 16

Chair: Takeo Hoshi

10:15 am Troy Davig (Federal Reserve Bank of Kansas City) and Eric M. Leeper (Indiana University and NBER)

"Temporarily Unstable Government Debt and Inflation"

Discussant: Etsuro Shioji (Hitotsubashi University and TCER)

11:15 am Shin-ichi Fukuda (University of Tokyo and TCER) and Junji Yamada

"Stock Prices and Fiscal Deficits in Japan"

Discussant: Yosuke Takeda (Sophia University and TCER)

Chair: Eric Leeper

1:30 pm Kaoru Hosono (Gakushuin University) and Masaya Sakuragawa (Keio University)

"Fiscal Sustainability in Japan"

Discussant: Takeru Doi (Keio University and TCER)

2:45 pm Michael Devereux (University of British Columbia and NBER) and David Cook (Hong Kong University of Science and Technology)

"Exchange Rate Adjustment in a Global Liquidity Trap"

Discussant: Takatoshi Ito (University of Tokyo, NBER, CEPR, and TCER)

3:45 pm Arata Ito (Hitotsubashi University), Tsutomu Watanabe (Hitotsubashi University and TCER), and Tomoyoshi Yabu (Keio University)

"Fiscal Policy Switching: Evidence from Japan, the U.S., and the U.K."

Discussant: Tatsuyoshi Okimoto (Hitotsubashi University)

Friday, December 17

Chair: Shin-ichi Fukuda

9:30 am Bruce Preston (Columbia University and NBER) and Stefano Eusepi (Federal Reserve Bank of New York)

“The Maturity Structure of Debt, Monetary Policy and Expectations Stabilization”

Discussant: Kosuke Aoki (University of Tokyo)

10:30 am Takero Doi (Keio University and TCER), Takeo Hoshi (University of California, San Diego, NBER, and TCER), and Tatsuyoshi Okimoto (Hitotsubashi University)

“Japanese Government Debt and Sustainability of Fiscal and Monetary Policy”

Discussant: Yasushi Iwamoto (University of Tokyo and TCER)

(2) 東アジア研究交流事業 (2011年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー) ご案内
2011年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー (East Asia Seminar on Economics, EASE) は2011年6月24日、25日に北京大学にて開催されます。今年度のテーマは「The Role of Government」です。今年は、これまでと違いハードカバーでの出版をしませんので、他の雑誌に投稿中の論文でも構いません。発表希望・問い合わせは、伊藤隆敏研究室 (tito@e.u-tokyo.ac.jp、ccにtito2@e.u-tokyo.ac.jp)までご連絡ください。なお、航空運賃はTCERが支払う予定です。著者謝金はありません。

(3) 環太平洋地域研究交流事業 (2011年度アジア危機コンファレンス) ご案内
2011年度アジア危機コンファレンスは、2011年6月24日、25日に韓国の釜山で開催されます (2011年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナーと同じ開催日です)。

(4) TCER コンファレンス事業 (旧逗子コンファレンス) 報告・ご案内
2010年度のTCER コンファレンスは「制度・組織と経済発展」をテーマとして、2011年1月29日、東京大学経済学部3F第4教室にて開催されました。プログラムは以下の通りです。

10:00-12:00 災害とリスクシェアリング

高崎善人 (筑波大学) “Natural Disasters and Health among the Poor”

コメント: 尾関 学 (岡山大学)

長谷部弘 (東北大学) 「上塩尻村の凶作と飢饉」

コメント: 高崎善人 (筑波大学)

13:30-15:30 産業集積 I

谷山英祐 (大阪商業大学) 「戦前期西陣の組織化」

コメント: 大塚啓二郎 (政策研究大学院大学)

橋野知子 (神戸大学) 「桐生織物産地の展開構造—織元の役割と力織機化の進展」

コメント: 園部哲史

16:00-17:00 産業集積 II

園部哲史 (政策研究大学院大学) ” How Can Micro and Small Enterprises in Sub-Saharan Africa Become More Productive?: The Impacts of Experimental Basic Managerial Training” (co-authored by Yukichi Mano, Alhassan Iddrisu and Yutaka Yoshino

コメント: 沢井 実 (大阪大学)

TCER コンファレンス事業では、事業の見直しを予定しています。評議員会で承認された事業計画は下記の通りとなります。3つ程度の分野におけるプロジェクトを1年または2年計画で立ち上げます。各プロジェクトの成果は、原則として、TCER ワーキングペーパーシリーズに投稿されることを前提とします。政策関連のプロジェクトなど一般の関心が高い分野では、最終研究成果が和文書籍の形で刊行されることを視野に入れています。なお、プロジェクトの立案は理事会が委任した者あるいは募集によって行います。

公2 学術研究交流促進事業

(1) 国際学術研究機関交流事業 (2011年度 NERO コンファレンス) ご案内

2011年度 NERO コンファレンスは、2011年6月20日に開催される予定です。テーマは「労働市場と労働市場政策」の予定です。

(2) TCER 定例研究会 (2010年度 TCER 研究会) 報告

2010年度のTCER研究会は一橋大学にて、一橋大学の経済理論ワークショップ、国際貿易・投資ワークショップ、産業・労働ワークショップ、マクロ・金融ワークショップとの共同開催の形で開催されます。各ワークショップの開催予定は

http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/news/seminar_list.html

に最新の情報がありません(このリンクは一橋大学経済研究所で開催される全ての研究会が掲載されています、TCER研究会とは直接関係のない研究会も含まれていますのでご注意ください)。後期の研究会を掲載いたします。2011年度も引き続き一橋大学で開催されます。

日時 2010/10/5 (火) 16:30~18:00
場所 第2研究館 217室 (2階)
報告者 Tue Gorgens (Australian National University)
題名 "Private School Usage in Australia"

日時 2010/10/12 (火) 16:30~18:00
場所 経済研究所 4階 共同研究室 (5)
報告者 青木浩介氏 (日本銀行金融研究所)
題名 "Bubbles, Banks and Financial Stability" (coauthored with Kalin Nikolov)

日時 2010/10/19 (火) 16:30~18:00
場所 第2研究館 217室 (2階)
報告者 Gaaitzen de Vries (University of Groningen)
題名 "Productivity in a Distorted Market: The Case of Brazil's Retail Sector"

日時 2010/10/25 (月) 12:10~12:50
場所 磯野研究館 3階 小集会室
報告者 森田穂高氏 (University of New South Wales)
題名 "FDI and Technology Spillover under Vertical Product Differentiation"

日時 2010/10/26 (火) 16:30~18:00
場所 経済研究所 4階 共同研究室 (5)
報告者 Hyeok Jeong (政策研究大学院大学)
題名 "Complementarity and Transition to Modern Economic Growth"

日時 2010/11/2 (火) 16:30~18:00
場所 第2研究館 217室 (2階)
報告者 Alexander Ljungqvist (New York University)
題名 "Monitoring Managers: Does It Matter?"

日時 2010/11/9 (火) 16:30~18:00
場所 第2研究館 217室 (2階)
報告者 猪野弘明氏 (関西学院大学)
題名 "Fee versus Royalties in General Cost Functions"

日時 2010/11/9 (火) 16:30~18:00

場 所 経済研究所 4階 共同研究室 (5)

報告者 Yi-Chan Tsai (東京大学)

題 名 "News shocks and costly technology adoption"

日 時 2010/11/18 (木) 16:30~18:00

場 所 マーキュリータワー 5階 経済セミナー室 (Room 3506)

報告者 Hamid Sabourian (University of Cambridge)

題 名 "Efficient Repeated Implementation"

日 時 2010/11/24 (水) 14:00~18:00

場 所 第3研究館研究会議室 (307号室)

報告者 Daniel Hamermesh (University of Texas)

題 名 "How to Publish in a Good Journal" [14:00-15:30]

"Strike Three: Discrimination, Incentives and Evaluation" [16:30-18:00]

日 時 2010/11/26 (金)* 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3F 研究集会室 (Room 317)

報告者 高橋 悟氏 (Princeton University)

題 名 "Recursive Methods in Discounted Stochastic Games: An Algorithm for $\delta \rightarrow 1$ and Fork Theorems" (coauthored with Johannes Horner, Takuo Sugaya, Nicolas Viellie)

日 時 2010/12/2 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3F 研究集会室 (Room 317)

報告者 若井克俊氏 (京都大学)

題 名 "A Model of Stochastic Utility Smoothing"

日 時 2010/12/7 (火) 16:30~

場 所 経済研究所 4階 共同研究室 (5)

報告者 藤生源子氏 (横浜国立大学)

題 名 "An Attracting Two-Period Cycle in the Leontief-Shinkai Two-Sector Growth Model: A Geometrical Approach"

日 時 2010/12/9 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3F 研究集会室 (Room 317)

報告者 藤中裕二氏 (東京工業大学)

題名 "Maximal manipulation in fair allocation" (coauthored with Takuma Wakayama)

日時 2010/12/14 (火) 16:30~18:00

場所 第2研究館 217室 (2階)

報告者 Erik Stam (Utrecht University)

題名 "Intrapreneurship versus independent entrepreneurship: A cross-national analysis of individual entrepreneurial behavior" (coauthored with Niels Bosma, and Sander Wennekers)

日時 2010/12/21 (火) 16:30~

場所 経済研究所 4階 共同研究室 (5)

報告者 平口良司氏 (立命館大学)

題名 "Optimality of the Friedman rule in an overlapping generations model with search"

日時 2010/12/22 (水) 16:45~18:15

場所 磯野研究館 2F プロジェクト室 (Room 217)

題名 "Middlemen: A Directed Search Equilibrium Approach"

報告者 2. 菅谷拓生氏 (プリンストン大学大学院博士課程; Princeton University)

題名 "Folk Theorem in Repeated Games with Private Monitoring"

日時 2011/1/13 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3F 研究集会室 (Room 317)

報告者 松井彰彦氏 (東京大学)

題名 "A Social Foundation of Nash Bargaining Solution" (coauthored with In-Koo Cho)

日時 2011/1/20 (木) 16:30~18:00

場所 磯野研究館 3F 研究集会室 (Room 317)

報告者 若山琢磨氏 (龍谷大学)

題名 "Is the truthful equilibrium salient?: An experiment on Nash direct-implementation" (coauthored with Hideki Mizukami and Tsuyoshi Nihonsugi)

日時 2011/1/24 (水) 16:30~18:00*

場所 磯野研究館 2F プロジェクト室 (Room 217)*

報告者 Antoinette Baujard (Universite de Caen Basse-Normandie)

題 名 "Questioning Welfarism"

日 時 2011/1/25 (火) 16:30~18:00

場 所 第2研究館 217室 (2階)

報告者 森川正之氏 (経済産業研究所)

題 名 「集積の経済と生産性・賃金・環境」

日 時 2011/1/27 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3F 研究集会室 (Room 317)

報告者 武岡則男氏 (横浜国立大学)

題 名 "Normal Form Games with Self-Control Preferences" (coauthored with Takashi Ui)

日 時 2011/2/8 (火) 16:30~18:00

場 所 第2研究館 217室 (2階)

報告者 Jae Nahm (Korea University)

題 名 "Merger Simulation in an Open Economy"

日 時 2011/2/10 (木) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館 3階 研究小集会室 (Room 317)

報告者 宮崎耕一氏 (法政大学経済学部)

題 名 "A Simple Model of a Futures Market"

日 時 2011/2/18 (金) 16:30~18:00

場 所 磯野研究館3階小集会室

報告者 Megumi Nishimura (University of Colorado at Boulder)

題 名 "Love of Quantity and Quality -A Non-Unit Demand Model of Trade on Vertically Differentiated Goods-

(3) ミクロ経済分析事業 (2010年度 TCER ミクロコンファレンス) 報告

2010年度 TCER ミクロコンファレンスは、9月17日(日)に第16回ディセントラライゼーション(DC)コンファレンスと共同開催の形で関西学院大学にて行われました。

(1)10時15分-11時45分、(2)13時15分-14時45分、(3)15時15分-16時45分の3つの時間帯に分かれ、それぞれ2つの平行するセッションにて計12本の論文が報告されました。17時15分-18時15分まで尾山大輔(一橋大学経済学研究科)が招待

講演を行いました。プログラム委員は石黒真吾（大阪大学）、梶井厚志（京都大学）、関口格（京都大学）、田畑頭（関西学院大学）、安田洋祐（政策研究大学院大学）、水野敬三（関西学院大学）の6名でした（敬称略）。プログラムは以下のとおりです。

セッション A 午前の部（講義室 324）

座長： 渡邊 直樹（筑波大学システム情報工学研究科）

10：15－11：00 平井 俊行（東京工業大学大学院社会理工学研究科）

The Menu-Induced Core of an Economy with an Excludable Public Good

11：00－11：45 坂井 豊貴（横浜国立大学経済学部）

Impartial Welfare Orderings in Infinite Time Horizon

セッション B 午前の部（講義室 325）

座長： 安田 洋祐（政策研究大学院大学）

10：15－11：00 宮城島 要（一橋大学経済学研究科）

Education Inequality among Different Social Groups

11：00－11：45 西村 健（一橋大学経済学研究科博士課程）

Incomplete Procurement Contracting with Risk-Averse Agent

セッション A 午後の部（1）（講義室 324）

座長： 関口 格（京都大学経済研究所）

13：15－14：00 高山 雄貴（東北大学大学院情報科学研究科博士課程）

2次元集積経済モデルによる Losch 型集積パターンの創発：三角形格子状の都市モデルにおける理論的解析

14：00－14：45 和田 健太郎（東北大学大学院情報科学研究科博士課程）渋滞と混雑を解消する情報効率的メカニズムの設計

セッション B 午後の部（1）（講義室 325）

座長： 若井 克俊（京都大学経済学研究科）

13：15－14：00 小井田 伸雄（岩手県立大学総合政策学部）

Anticipated Stochastic Choice

14：00－14：45 武岡 則男（横浜国立大学経済学部）

Normal Form Games with Self-Control Preferences

セッション A 午後の部（2）（講義室 324）

座長： 清水 崇（関西大学経済学部）

15：15－16：00 木内 祐輔（大阪大学大学院経済学研究科）

Growth or Welfare State? Optimal Composition of the Government Expenditure

16：00－16：45 工藤 教孝（北海道大学経済学研究科）

Beauty Contests and Asset Prices under Asymmetric Information

セッション B 午後の部（2）（講義室 325）

座長： 坂井 豊貴 (横浜国立大学経済学部)

15 : 15-16 : 00 北原 稔 (学振PD・首都大学東京)

A Note on Monotonic Assignment Problems

16 : 00-16 : 45 橋本 和彦 (学振PD・神戸大学)

Strategy-Proof Cost Sharing under Increasing Returns: Improvement of the Supremal Welfare Loss

招待講演 (講義室 326)

司会： 梶井 厚志 (京都大学経済研究所)

17 : 15-18 : 15 尾山 大輔 (一橋大学経済学研究科)

Sampling Best Response Dynamics and Deterministic Equilibrium Selection

2011年度TCERマイクロコンファレンスは、第17回ディセントライゼーション(DC)コンファレンスと共同開催の形で9月16日に筑波大学で開催予定です。

(4) マクロ経済分析事業 (2010年度TCERマクロコンファレンス) 報告・ご案内

2010年度TCERマクロコンファレンスは、2010年12月18日(土)、19日(日)に一橋大学大学院国際企業戦略研究科で開催されました。オーガナイザーは、チャールズ・ユウジ・ホリオカ、櫻川昌哉、塩路悦朗の各氏でした(敬称略)。プログラムは以下の通りです。

12月18日(土)セッション1：金融政策

座長：渡辺努(一橋大学)

13 : 00~14 : 00

中園善行(早稲田大学大学院生)

"Policy Commitment and Market Expectations: Survey Based Evidence under Japan's Quantitative Easing Policy" (上田晃三氏との共著)

コメント：渡辺努(一橋大学)

Session 2: English Session

Chair: Etsuro Shioji (Hitotsubashi University)

14 : 00~15 : 00

Oleksandr Movshuk (University of Toyama)

"Balance sheet effects on household consumption: evidence from micro data"

Discussant: Tokuo Iwaisako (Ministry of Finance)

15 : 30~16 : 30

Michiru Sakane (Graduate student, Duke University)

"Product Variety, Firm Entry and Terms of Trade Dynamics"

Discussant : Hyeok Jeong (GRIPS)

16 : 30~17 : 30

Julen Esteban-Pretel (GRIPS)

"Japan's Labor Market Cyclicalilty and the Volatility Puzzle" (with Ryo Nakajima and Ryuichi Tanaka)

Discussant : Seung-Gyu Sim (University of Tokyo)

12月19日(日)

セッション3 : 景気循環

座長 : チャールズ・ユウジ・ホリオカ (大阪大学)

9 : 30~10 : 30

高準亨(一橋大学大学院生)

"The Great Moderation in the Japanese Economy" (村瀬功一氏との共著)

コメント : 沖本竜義 (一橋大学)

11 : 00~12 : 00

平形尚久 (日本銀行)

"Japan's Banking Crisis and Lost Decades" (須藤直氏、上田晃三氏との共著)

コメント : 西山慎一(内閣府経済社会総合研究所)

セッション4 : 金融 (1)

座長 : 林文夫 (一橋大学)

13 : 00~14 : 00

宮川大介 (政策投資銀行設備投資研究所)

"Walking After Midnight: Measurements and Pricing Implications of Market Liquidity on Corporate Bonds" (渡邊修士氏との共著)

コメント : 白塚重典 (日本銀行)

14 : 00~15 : 00

中島清貴 (甲南大学)

「公的資金注入の邦銀に対する介入効果: どのように機能し、どのように機能しなかったのか?」(相馬利行氏との共著)

コメント : 鯉淵賢(中央大学)

セッション5 : 金融 (2)

座長 : 櫻川昌哉 (慶応義塾大学)

15 : 30~16 : 30

植杉威一郎 (経済産業研究所)

"Examining the Effects of the Emergency Credit Guarantee Program on the Availability of

Small Business Credit" (小野有人氏、安田行宏氏との共著)

コメント：星岳雄(カリフォルニア大学サンディエゴ校)

2011年度は11月～12月頃に慶応義塾大学で開催する予定です。テーマは特に定めず、マクロ経済学に関するものであれば、理論・実証を問わず、広く募集する予定です。扱う対象も日本経済・外国経済を問わず、優れた研究論文の応募を呼びかけますが、日本経済・世界経済の最近の動向に新しい知見を与えてくれる論文を特に求めます。

(5) 若手研究者育成支援事業 (2010年度ジュニアワークショップ) 報告

2010年度ジュニアワークショップは、2010年7月31日(土)に、慶応・京都 GCOE プログラム国際班と共同開催で、慶應義塾大学で開催されました。幹事は、木村福成、清田耕造、権赫旭、松浦寿幸の各氏でした(敬称略)。プログラムは以下の通りです。

<10:00-12:15 第一セッション>

座長 清田耕造(横浜国立大学国際社会科学研究所)

10:00-10:05 木村福成(慶應義塾大学経済学部 教授) Opening Remarks

10:05-11:05 渥美利弘(明治学院大学経済学部)

Silk, Regional Rivalry, and the Impact of the Port Openings in Nineteenth Century Japan

11:15-12:15 池内健太(一橋大学大学院経済学研究科)

The Effects of Transportation Costs and Knowledge Spillovers on Regional Productivity Differences: an Empirical Study of Manufacturing Industries in Japan.

<13:00-15:10 第二セッション>

座長 権赫旭(日本大学経済学部)

13:00-14:00 楠田康之(日本福祉大学)

「参入・退出をともなう動学的フランチャイズ市場と再販売価格維持」

14:10-15:10 五十川大也(東京大学大学院経済学研究科)

The Impact of Gasoline Price Expectations on Automobile Demand

<15:20-17:30 第三セッション>

座長 松浦寿幸(慶應義塾大学産業研究所)

15:20-16:20 鶴岡昌徳(東京大学大学院経済学研究科 博士課程)

Auction versus Negotiation in Issuing Treasury Securities: Evidence from Japanese Government Bond Auction

16:30-17:30 高橋新吾(国際大学)

A Structural Estimation of the Effects of Spousal Tax Deduction and Social Security System on the Labor Supply of Japanese Married Women

17:30-17:35 清田耕造 (横浜国立大学国際社会科学部) Concluding Remarks

編集後記

2010年度の第2号は公益財団法人に移行後の記念すべき第1号となりました。昨年10月に公益財団法人となり、TCERも大きく変わりました。今回のNEWSLETTERも少しボリュームアップしています。TCERは日本におけるNBERを目標として創設されました。その初心を忘れず、内外研究者の研究交流の場としてますます活発な組織になって欲しいと思います。

このNEWSLETTERを皆さまにお送りする直前に、東北地方太平洋沖地震が発生しました。被害にあわれた地域の皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます (K.H.)。

Newsletterに関するご意見やご感想は、代表理事 岡田章 aokada@econ.hit-u.ac.jp または
総務理事 原田喜美枝 kimieh@tamacc.chuo-u.ac.jp までご連絡下さい。

=====

公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703号室 (部屋番号が変更になりました)

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp